



2011年度聖句

受けるよりは与えるほうが幸いである  
(使徒言行録20章35節)



いずみちゃん クラークくん  
(クラーク学園和泉短期大学のマスコットキャラクター)

izumi ニュース Vol.9

和泉短期大学 広報渉外ユニット

発行責任者 理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1

TEL.042-754-1133 (代表)

URL <http://www.izumi-c.ac.jp>

キャリアデザインセンター

## 2011年度 理事長の挨拶 理事長 深町 正信 ..... 2

## 特集 キャリアデザインセンター開設 ..... 3

### izumi TOPIC

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| ● 真鍋記念奨学金顕彰式 ..... 4          | ● 特別礼拝 ..... 5                 |
| ● 東日本大震災緊急支援募金・新入生研修会 ..... 4 | ● 退任教職員挨拶(2010年度) ..... 6      |
| ● 新入生の声 ..... 5               | ● 訃報：中島 漢子氏 元クラーク学園評議員 ..... 6 |
| ● 後援会バスツアー ..... 5            |                                |



# 2010年度の歩みを顧みつつ

学校法人 クラーク学園 和泉短期大学  
理事長 深町 正信 (青山学院名誉院長)

クラーク学園基本構想(ミッション・ステートメント)に基づいて、2010年度の和泉短期大学、同専攻科の一年間の歩みを皆様方のご理解とご協力により、無事に終わるにあたり、ここに一年間の学校法人としての歩みを思い起こしつつ、簡単に記してみたいと思います。

去る3月11日に、前例をみないマグニチュード9.0という大地震、大津波による「東日本大震災」により、多数の犠牲者と甚大な損害を被りました。更に、福島の原発事故により、多くの方々が避難を余儀なくされ、自宅を離れて、他県に避難するという災難も起こりました。被害者の総数は行方不明者を含めて、死亡が14,662人、安否不明が11,019人となりました(5月1日現在)。放射性物質による大気汚染、野菜、乳牛などへの影響により、食品が売れない風評被害が国内外で広がっています。電力不足と停電、交通機関の混乱、絶え間なく続く強い余震により、本学は他の多くの大学、短期大学、学校と同様に不測の事態と交通機関の混乱に備えて、卒業証書・学位記授与式を急遽取り止めざるを得ませんでした。このことは本学としても苦渋の決断でありました。しかし、幸いにも、2011年度の入学式は周到な準備のもと、去る4月1日に無事に挙行することができました。新入生たちの明るい、希望にみちた、元気な姿と、そのご両親たちの嬉しそうな姿を見て、新入学生たちの今後の歩みに期待するところ大되었습니다。

この大震災に対して、本学の宗教部は早速、具体的に募金活動を実施し、教職員、学生、卒業生に訴えて、災害支援金を集めることになり、この支援金は本学と歴史的に関係の深い特定非営利法人NPO「チャイルド・ファンド・ジャパン」に託して現地の救援活動の一部に用いてもらうことになりました。

現在、本学の学生定員は250名ありますが、2011年度も教職員の弛まぬ日頃の努力により、293名の学生を確保することができ、また、専攻科も20名の学生定員のところ26名を迎えることが出来ましたことは深い感謝であります。

これまでどの大学、短期大学も出来るだけ偏差値が少しでも高い学生、能力の高い学生に向け、受験校同士の競争に勝つことを願ってきました。しかし、今後は受験生の能力の高さだけでなく、本学において何を学び、自分が将来何をしたいのかをよく聞き、それを実現できるように学生を育てる「育成型」短期大学を目指してゆきたいと思います。そして、受験生が将来、保育所、幼稚園、社会福祉施設で働く資格を得るために、一人一人の学生をよく育てる短期大学として、その養成校としての使命をよく果たしてゆくこそが本学に課せられた使命であ

ると考えています。

そのことを受験生に伝えるためにも、これまでに本学を卒業した14,718人の卒業生の中から、学生のよきモデルとなる卒業生を紹介し、具体的に受験生たちが、本学に入学し、そこで学ぶ意義と、卒業後の仕事を具体的に描けるようにしたいと願っています。

2009年度に統一して、2010年度にも文部科学省の大学改革推進等補助金に「保育就業力向上推進プログラム」が採択され、その研究援助があり、新たに「キャリアデザインセンター」を学内に開設し、そこに子どものための素晴らしい絵本、遊び用具を備え、また、学生自身が在学中に何を学び、何を考え、何を活動したかを記した「キャリア・ファイル」を入力するシステムを作りました。これにより、学生が各自で自分の就職にあたり、本学で、自分が何を学び、何を活動したかが一目瞭然となり、本人の就職の面接にも大いに役立つことが期待されています。

更に、授業を受ける際に、学生の出席については従来のカード方式を止め、各講義を受けるとき、入り口で、学生が学生証を機械にてチェックできるシステムに変更しました。また、幼児教育者にとり、音楽の伴奏の能力は是非必要な能力であります、新たに「ETL」と呼ぶ装置を設置して、一人の教師が一度に多くの学生を教えることができるよう改善しました。これは将来、幼児教育、保育、介護福祉の仕事に当たるものにとり、必修のことだろうと思います。

本年3月には永年にわたり本学の校舎清掃に携わってこられた「東海ビルメンテナス」の従業員10名の方々に感謝状を贈り、昼食をともにして、その永年の労を感謝しました。この方々の陰日向のない毎日の心をこめた清掃が学生たちの学びの生活に大きな力となり、清潔な、明るい、よりよい教育環境を作り出してくれていることは確かであります。

2011年度は更なる飛躍の年となるように、健全な経営を目指し、すべてのことを見直しながら、学問、教育、研究共同体としての本学の充実のために努力をしてゆく所存ですので、ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。



▲募金箱



▲東海ビルメンテナススタッフ

# キャリアデザインセンター開設

## キャリアデザインセンター(CDC)開設に寄せて



▲子育てひろば「はっぴい」

2011年4月、新たにキャリアデザインセンター(CDC)を開設することができました。学生の実践的な学びのための環境が与えられましたことを感謝いたします。他大学における同様の取り組みは、学生の幅広い学習支援と就職支援を促進する目的で開設される例が多く見られますが、本学のキャリアデザインセンターは、他学とは一線を画しております。学生の就職先も保育所・幼稚園・施設がほとんどであるため、「保育職」としてのキャリアを自ら学び、デザインし、社会と現場に貢献し続けることができる人材を育成することを目的として、「保育室」をイメージした実践的指導が可能な環境を構成いたしました。センター内のインテリアのみならず、子どもを取り巻く教育環境を相模原の地にて文化として発信できるように、絵本・玩具・家具などの教材も厳選して揃えました。学生たちに、子どもに媚びないもの、良いもの、本物に、身体全体で触れ、その意味を感じて欲しいと思っております。また一般教養から常識、生活習慣、保育技術など、「生きる力」の総合的な獲得を目指し、キャリアファイルシステムを通じた自主学習が可能な場も含んでおります。その学びをサポートするキャリアデザイン支援者2名、IT支援者1名も常駐しております。

さて、このようにCDC開設が実現できたのは、毎年200～300名の保育者を世の中に輩出してきた本学の養成に携わってこられた歴代の先生方と現在の専任教員の願いや祈りが一体となって結実したもので、時が熟して、この春に実現したこと、そして開設に向けての実際的なプロセスに偶然に関わらせて頂けたことに改めて感謝いたします。

私は、2009年に本学に参りました、子育てひろば「はっぴい」の実践に関わらせていただいております。当初より、その活動は「体育館のリトミック室」を無理やり子育て支援の場に設定し直して使用することが定例となっていました。与えられた

## キャリアデザイン委員会 准教授 松浦 浩樹

環境の中で、懸命に支援活動を続けてこられたこれまでの先生方に脱帽しつつも、「子育て支援のための空間が欲しい」という思いが私にはありました。また歴代の先生方同様に保育の実際的な学びができる空間も切望しておりました。そのような中、深町正信理事長と佐藤守男教授、両者からほぼ同時期に、「103号教室の有効的活用を!」という提案がなされました。急いでラフなデッサンと有効活用のためのデザインを仕上げ「将来計画」の一環として提出することが許されました。ところが神様の時とは不思議なもので、同時に文科省大学改革推進事業補助金「大学生の就業力促進支援プログラム」に申請する任務が与えられ、通常のGP以上に難関で選定されることは不可能との見方が強く、諦めかけていた数ヶ月後、選定を受けることが決まりました。まさにセレンディピティ、いえ、むしろ「カイロス」的な神の恵みです。

改めて、「保育就業力向上推進プログラム 守られ育てられる者から守り育てる者へ」とテーマ設定をし、学生たちが自ら、基礎的、実践的に保育職としての「知」をデザインすることができるようプランを再構成し、和泉独自のポートフォリオ(保育就業力支援のワークファイル)とそのシステム化、科目指導と就業力支援者との有機的連携による学習支援、保育実践支援を企画いたしました。また子育てひろば「はっぴい」もCDCで行い、学生が地域の保護者や子どもに触れ合う実践としての場を再構成して実現しました。学生たちが近い将来、子どもを守り育てる者へと成長し、実践の知をデザインし続ける保育就業力を身に付けるために、各講義・演習と共に、このCDCで学びを総合的・包括的にまとめていって欲しいと願っています。



▲キャリアデザインセンター開設スタッフ

最後に理事長をはじめ、このプランにご理解と励ましを下さった理事会の方々、キャリアデザイン委員会の先生方、そしてキャリアファイル運営委員会、子育て支援運営プログラム委員会に携わり、夜遅くまで、研究日や休日

を返上して、開設とキャリアファイルシステム整備に向けて、喜んで尽力くださった教職員の方々の熱い志に深く感謝申し上げます。



## 2010年度眞鍋記念奨学生特別奨学生の顕彰式

眞鍋記念奨学生は、本学園の設立に功績のあった、故・眞鍋頼一理事長の寄附等を基金とする奨学生です。

本学園の建学理念である、キリスト教精神の“愛と奉仕”的もと、広く社

会に貢献する学生の育成を図るため、毎年、本学の成績優秀な学生に対して、2年次後期授業料分の奨学生が支給されます。

2010年度は、以下の学生が特別奨学生に決定しました。

### 特別奨学生2名のコメント

勝山 恵（私立神奈川学園高等学校出身）

夢を叶えるために入学した和泉での学生生活は毎日とても充実し、自分が本気になって取り組める活動がありました。そのような毎日のなかで、私は多くの仲間や先生方と出会いました。一緒に喜びを分かちあい切磋琢磨し合えた仲間たち、迷って悩んでいるときなど暖かく優しいアドバイスをくれた先生方の存在は、私のこれから的人生において貴重な財産になりました。

今年度の眞鍋記念奨学生の特別奨学生に選ばれたのは私一人の力ではなく、このよう多くの方たちの支えがあったからだと思っています。とても嬉しく思います。

和泉での二年間の学びをしっかりと胸に刻み、“愛と奉仕”的精神を忘れず、これからも日々精進していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

本橋 菜央（神奈川県立二俣川看護福祉高等学校出身）

眞鍋記念奨学生に選ばれ、とても嬉しく思います。ありがとうございました。

私の短大生活は、小学生の時からの夢だった「保育士」を目指す日々でした。

この二年間の色々な授業を通して、今まで思っていた「保育士」のイメージが全く別のものになりました。特に二年生の後期、友達と「保育とは何か」について語り合った日々。とても楽しかったです。授業への意欲も湧きました。保育・教育に携わる者の責任と視点を学びました。

今回の受賞は、授業を共にしてくれた友達、よりわかりやすく伝えるために丁寧に教えてくれた先生方、そしてずっと支えてくれた家族のおかげだと思います。心より感謝します。この感謝の気持ちを忘れずに社会人として生活していきたいと思っています。

これから出会う子ども達にも、周りの人々に支えてもらっていることや、その方々への感謝の気持ちは忘れてはならないことを伝えたいと思います。



## 東日本大震災緊急支援募金・新入生研修会・被災地ボランティア体験



▲チャイルド・ファンド・ジャパン 事務局長 小林毅氏

での献金と合わせて、学園と関係の深い認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパンを通して、被災地支援に役立てられます。

例年宿泊形式で行なってきた新入生の学外研修会も、さまざまなことを考慮し、宿泊を伴わない形で学内実施としました。講師は昨年度の時点では、チャイルド・ファンド・ジャパン事務局長の小林毅氏にお願いしておりました。小林氏は地震発生後、被災地支援の働きに迅速に対応され、何度も支援物資を東北に運ばれるなど、ご多忙を極めておられましたがお時間を作って下さいました。

「あなたたちはひとりじゃない! We are with you!」と題したご講演では、まず被害に遭われた方々への黙祷が捧げられました。そして、私たちも加わっているスポンサーシッププログラムに関するお話を合わせ、現地の状況を直接見ている方でないと分からぬ被災地の状況が伝えられました。アジアでも、日本国内でも、困難な状況にある人たちへの支援に一貫して取り組まれている講師の姿勢と言葉によって、アジアの国々の貧困生活も、東日本大震災も、遠い場所のことではなく、まさに私たちの隣で起きていることだということへの理解がもたらされました。そのことは講演後のグループ別の話し合いで積極的な意見が交わされたこと、全体会での発表がそれぞれしっかりした内容であったことに表われています。



▲宮城県七ヶ浜町ボランティア

未曾有の大災害により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

私たちの学園では、3月末より緊急支援募金箱を学内事務局前に設置しました。4月末までの間に多くのご協力をいただきました。4月のチャペルアワー

隣人の困難に目を背けない姿勢、他者の立場に立って心を向ける大切さを学べ、保育者を目指して入学した新入生にとって大変意義深い研修会となりました。

緊急支援募金、新入生研修会での学びを通して、本学の建学の精神である「愛と奉仕」について、学生、教職員一人一人が向き合い、深く考えることにつながったものと思われます。

宗教部長 横川剛毅

### —被災地ボランティアを体験して—

私は被災地ボランティアの為、4月30日から5月5日までの6日間、宮城県の七ヶ浜町に行ってきました。

石巻や気仙沼といった場所はテレビでもよく聞きますが、塩釜や七ヶ浜町は聴いたこともありませんでした。しかし、実際に行くと他と同じ様に被害を受けていて、一面瓦礫といった風景が広がっていました。その光景を観た時、昔読んだ「はだしのゲン」という漫画の戦場のシーンが思い出されました。それはあまりにも非現実的であり、想像を絶する光景であった為か、思っていたほどショックを受けなかったというのが正直な感想です。

ボランティアの作業は、主に浜や路上、公園などの清掃、被災地の子ども達に対するケアを目的とした保育、個人宅のへどろ出し、遺留品整理などです。しかし、ニーズは時間とともに変化する為、その時々のニーズに合わせた作業になると思います。また、法律の問題から2ヶ月以上経った今でも震災当時から手付かずの場所もある為、ボランティアや支援は継続的に行なうことが大切です。

東京などでは、震災のニュースも減り、過去の出来事になりつつありますが、まだまだ復興には時間がかかります。この震災のことを忘れない為にも一ヶ月に10円でも100円でもいいので募金箱に入れて、その時だけでも被災地のことを考えてもらえたら嬉しいです。今後も月に一度被災地に足を運び、復興までの様子を実際に自分の目で確かめるとともに少しでも復興の手伝いができるたら良いと思います。

専攻科 川越 奏



▲アルバムの整理作業

## 新入生の声

### 児童福祉学科1年 諏訪 愛衣(神奈川県立旭高等学校出身)



私は和泉短期大学に入学する際子育てひろば「はっぴい」のボランティアがあることを知りました。実際に子どもたちとふれあえることができ、学校に通いながら経験を積むことができる点が良いと思いました。また、介護福祉士資格が取得できる専攻科にも興味を持ち和泉短期大学を選びました。

高校の時とは環境が違って戸惑うこともありますが、優しい先生方や先輩方がアドバイスを下さるので、とても楽しく通っています。これから一生懸命勉学に励みたいと思います。

### 専攻科 吉谷 美香



私は三月に和泉短期大学の児童福祉学科を卒業し、四月に介護福祉専攻科へ入学しました。高校生のときから介護老人福祉施設でのアルバイトをし、介護の様子を見ていたので、和泉短期大学へ入学する前から介護福祉士に興味を持っていました。短大卒業時にもその気持ちは変化しなかったため、入学を決めました。

今まで学んできたことを活かし、よりよい支援ができるように学んでいきたいと思います。



## パイプオルガンをめぐる旅—和泉短期大学後援会主催—



4月30日(土)に和泉短期大学後援会主催の第2回バスツアー『パイプオルガンをめぐる旅』が天候に恵まれ実施されました。

最初に、青山学院大学相模原キャンパスのウェスレー・チャペルのパイプオルガンを見学し奏楽に聴き入りました。次に、パイプオルガン工房マナ・オルゲルバウでパイプオルガン製作工程を見学し、パイプの長さや太さによって音程や音色が変わる加工技術、図面通り精密に作り組み立てていく木工技術などに驚き感動しました。最後に、日本バプテスト連盟相模中央キリスト教会のマナ・オルゲルバウ工房製作のパイプオルガンを見学しバスツアー参加者も演奏させて頂き、パイプオルガンをめぐる旅を終えました。



▲参加された後援会の方々



▲ウェスレー・チャペル



▲パイプオルガン工房マナ・オルゲルバウ



## 特別礼拝 イースター礼拝・創立記念礼拝

年度初めに特別礼拝をお挙げしました。4月25日のイースター礼拝では、相模原教会牧師の辻川 篤 先生が、「思い出せ、主の言葉」と題してお話くださいました。キリスト教会にとって、イースターが特別に大きなお祝いの日であることを確認することができました。翌週、5月2日の創立記念礼拝では、上溝教会牧師であり、本学後援会会长の木村 治男 先生から、「キリストの愛の泉 一和泉の源泉一」というメッセージを伝えていただきました。和泉の創設時の関係者のお働きについて深く学び、本学が常に神様の愛によって導かれ、守られてきていることを確認できる豊かな時でした。



▲創立記念礼拝  
本学後援会会长 木村 治男氏



▲イースター礼拝 相模原教会牧師 辻川 篤氏



▲イースターの飾り付けを行う学生



▲創立記念礼拝

# 退任教職員挨拶(2010年度)

## 和泉に感謝



事務局長  
佐藤 公啓

和泉短期大学が全学移転する関係でクラーク学園にお世話になり、35年もの間たくさんの方々の支えによって定年を迎えることができたことに喜びと感謝に堪えません。

和泉短期大学が東京世田谷区中町から相模原市に1976年8月に全学移転をしましたが、本来は4月から開校予定でしたが、工事着工の遅れから8月になってしましました。

中町校舎は、6月には日体大に明け渡す関係で学生は早めの夏休み、我々教職員は行き場所がなく、郷司理事長の計らいで自由が丘駅近くの銀行の2階に仮事務所を設け事務を行なっていました。その間は、学校に勤めた感じはしないで、銀行員のような錯覚になっていました。

1976年の相模原市のこの地に移転したころは、周辺はまだ整備されていくなく、学校敷地に蛇や小動物が侵入したり和泉短期大学の前は米軍の跡地で荒廃し、街路樹も今の桜並木ではなく鬱蒼とした樹木で夜は怖い感じでした。そして、今の研究棟は、学生寮でした。

横浜線も茶色の車体で床が木材でオイルが塗られ異様な匂いと単線で1時間に1本か2本の運行でした。35年で相模原市も変わり、和泉短期大学も施設設備が充実し、地域に密着した。短期大学となり、この和泉で働かせていただいたことにあらためて感謝をいたしたいと思います。そして、学校の益々の発展を祈念いたしております。

## 11の花束をありがとう



教授  
原田 康子

終戦の1945年11月に生を受け、人類の記憶に残るであろう2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故発生中に定年を迎えることとなりました。

一緒に卒業しようと語った2年生の卒業式も開催中止となりましたので、この紙面をお借りして「御卒業おめでとう」と伝えさせていただきます。

特別最終講義「和泉短期大学と私—いのちの感覚を伝えて—」を行った2月2日以来11の花束をいただき、学園からの感謝状と皆様からの色紙の周りを祭壇のように飾って、4月に入ても美しい姿で香しく私を包んで定年の日の始まりを演出してくれています。

長くもあり短くも感じる大学教員としての過去をたどれば、定年は私が目指した人生の最大の道標であり、けっして平坦な道ではありませんでしたが、私が大学・大学院と学んだ自然科学、とりわけ生命科学を次代に生きる若人の育成に役立てようと使命感を抱いて歩んだ険しくも、生きがいを感じる道ありました。

私の職業人としての人生の大半は、和泉短期大学における保育者養成であったことができるでしょう。多くの人々の愛と支えに見守られ、今まで38年間（北里大学での医学生教育10.5年と和泉短期大学27.5年）社会的活動の場が与えられました。“生命の精妙な仕組みと尊さ”および“普遍的な価値の基本を「生命」に置くことの重要さ”を多くの大学生に伝えることができたことは教師として最大の喜びです。また教務部長、学生部長、将来計画委員等の委員会活動を通して教職員の皆様と共に尽力し、互いの努力を積み重ねた形にしてきました。こうした皆様との信頼の絆が、ねぎらいの言葉と共に11の花束に託されて私に届けられたと感じております。

11の数が私にとって特別なことのように思えてきます。皆様のご健康と伝統ある和泉の益々の発展をお祈りいたします。

## 訃報

元クラーク学園評議員・初代学長 故 中島 武夫氏令夫人 中島 淑子氏が、2011年4月10日(日)6時38分に召天されました。(享年95歳)故人のご逝去を悼み、ここに謹んでお知らせを申し上げます。

## 中島 淑子氏 略歴

1915年6月22日	富山県高岡市に誕生	1977年3月31日	同教会及び同幼稚園副園長 退任
1935年3月31日	大阪バプテスト女子神学校卒業	1982年6月1日	学校法人クラーク学園評議員 就任
1968年4月1日	日本キリスト教団小諸教会主任担任教師に就任	2010年5月31日	同評議員任期満了 退任(在職期間14期28年)
1971年4月1日	同教会附属小諸幼稚園副園長に就任		

## クラーク学園和泉短期大学を退任するに当たり



特任教授  
豊福 義彦

「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしと与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」ヨハネによる福音書4:14

この聖書のみ言葉は、わが和泉短期大学の教育理念を貫く生きた言葉です。それは学園に学ぶ学生の魂をゆさぶり冷徹なまなこをもって、乳幼児から高齢者にいたるすべての人間の保育・介護の生きざまに関わる働きの原点となるからです。

私のクラーク学園との関わりは、私が大学を卒業した年に東京世田谷区中町にあった児童養護施設バット博士記念ホームに児童指導員として就職して以来、十年間同じ敷地にあった玉川保母専門学院（和泉短期大学の前身）とお付き合いをさせていただき、学院の実習生や卒業生とともに児童養護の働きに携わってきました。

学院が短期大学になった四年目に、私は請われて和泉短期大学の教員となり、それ以来現在の相模原キャンパスに移転も含めて二十四年間、児童福祉の重要な働きを担う保育者の養成に力を注いできました。その後十一年の後に、和泉福祉専門学校の介護教育に携わってからも、この教育理念は基本的に変りませんでした。これから後も、学生の教育に携わる教職員のみなさんに、この永遠の命に至る湧き出る和泉の建学精神を継承していかれるこことを強く願っています。

## 感謝の気持ちでいっぱい



助教  
野尻 美枝

淵野辺公園の桜をつぼみがほころびそうな今日この頃、あの桜を初めて目にした日が懐かしく思い出されます。恵まれた環境を与えて頂いていたことに、感謝の気持ちでいっぱいしております。毎日、どんなにお忙しい中にあっても、あらゆることに心を尽くされ、全力で教授にあたられる先生方のお姿を目にし、教員たる志を肌身に感じながら、たくさんの学びを得た日々でした。また、構内ですれ違うたびに笑顔で挨拶を交わした学生の皆さん、実習のたびに頼もしくなる未来の保育者の成長とその軌跡に、この仕事のやりがいとうれしさを覚えました。このたび、和泉短期大学を去ることになりました。今後は、他大学で教員をしつつ、学生に戻ってもう一度、保育について学び直すつもりでおります。

まだまだ未熟な私ですが、ゆくゆくは、和泉の先生方のように保育の奥深さや子どもたちの輝きを伝えていくような教員へと成長したく、自己研鑽を重ねていきたいです。

和泉に導かれ、こんなにもたくさんの喜びと希望、そしてあたたかな愛を与えられ、巣立つことができ、幸せです。和泉短期大学のますますのご発展と皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## 大変お世話になりました



学術情報ユニットリーダー  
今野 和隆

今振り返ると、私の在職していた20年は日本の大学にとって1つの変革期であったように思われます。かつての銀行がそうだったように、いつの間にか、大学も経営破綻があり得るという厳しい時代になりました。そうした外的の状況下、限られた資源をうまく使って、学生・教職員へのサービス充実を考えることが自分の使命だったようになります。ご承知のように、近年の急速なIT化は、われわれの暮らしも教育現場も変えました。しかし技術の導入にはお金がかかるものです。外注すれば、当然その分支出が増えますので、自分でもできることが何かないか日々考え続けてきました。システム障害が直らず、日付が変わるまでサーバと対峙し続けたあの日も今では思い出します。力不足で実現できなかった案件も多々ありましたが、世界的にクラウドの導入が進む中、本学園がGoogle Apps環境に移行できたことは良かったと思っています。要領と記憶力の人一倍悪い私を、辛抱強く支えてくださった教職員の皆様、本当にお世話になりました。そして何より毎日出会う学生たちの笑顔が、私の日々の活力源だったと感じています。ありがとうございました。



学園関係者一同、ご家族の上に慰めと平安がありますようお祈りし、衷心より深く感謝申し上げます。